

令和5年度 学校経営計画に対する中間評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定	集計結果	備考		
1 地域の食や農業、環境問題に積極的に関わり、地域の活性化に貢献する意欲と態度を育成する。	① ふるさと石川の食・農・環境について関心を持ち、理解を深めるための講演会、研究発表会等を実施する。	全職員 各年次 各コース 各研究会	【成果指標】 ふるさと石川の食・農・環境について関心が高まっている。	いしかわの食・農・環境について関心が高まった生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	おおおいに高まった27.2% ある程度高まった41.4% 関心が高まった合計 68.6%	「おおおいに高まった」と「ある程度高まった」を合わせると、それぞれが27.2%と41.4%で、合計68.6%であった。昨年度は、前者が15%、後者が39%、合計54%となっており、昨年度の数値を大幅に上回る結果となった。 学年別の結果は、1年次が74.7%、2年次が65.8%、3年次が65.1%となっており、学年が上がるにつれて関心が薄れていく傾向にあるようである。1年次には、農業科目「農業と環境」を通して、生徒へ石川の食・農・環境について関心を喚起させる取り組みを行うことができるが、2年次以降は、このことに関する取り組みについて、分野によって温度差が出てくるように思われる。ロングホームの活用も今後一考すべきであると思われる。		
	② 校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満			B	しっかり取り組んでいる 37.3% ある程度取り組んでいる 45.7% 取り組んでいる合計 83.0%	「しっかりと取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」と回答した生徒は全学年では83.0%で、昨年度と比べ3ポイント増加している。学年別では1年88.8%、2年77.2%、3年83.5%あった。また、「まったく取り組んでいない」という生徒は全学年では2.8%おり、昨年度よりも減少したものの指導を続けていきたい。 今年度、保健課では新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策に加え、きれいな環境づくりや汚さないような環境づくりに取り組んでいるが、生徒の環境美化意識の向上や環境美化習慣の定着が図られるよう、学年や全教職員の理解と協力のもと取り組みを広げていきたい。
2 学習意欲の向上と進路に応じた学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて指導体制の充実に取り組む。	① 朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢を身につけると共に、基礎学力向上が実感できるようになる。	教務課 各年次 各教科	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組み、基礎学力を身につける。	翠星タイムを通して、基礎学力が向上したと思う生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	よく身に付いた32.4% ある程度身に付いた 51.9% 身についた合計 84.3%	朝学習（翠星タイム）によって、基礎学力を身につけることができたかという問いに対し、「よく身に付いた」及び「ある程度身に付いた」と答えた生徒の割合が、8割を超えたものB判定となった。判定は、昨年度に引き続き同じだが、昨年度に比して11ポイント上昇した。 学年別に見ると、「よく身についた」とした割合が1年次32.7%、2年次36.8%、3年次27.2%と全年次で高くなった。今後も基礎学力の向上に向けた方策を検討していきたいと考えている。		
	② 研究授業や互見授業を通して、授業における工夫・改善、効果的なICTの導入方法などを知ること、授業改善に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と感じている生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満			B	分かりやすい授業が8割以上 32.1% 6割以上 48.1% わかりやすい授業の合計 80.2%	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は、昨年度72%に対して、今年度は80.2%と大きく上昇した。昨年度以上に高い水準を維持することができた。 ICTを活用した授業の取り組みなど教員の授業に対する工夫と改善の積み重ねの結果と考えられる。今後とも、授業研究週間や公開授業等を積極的に活用するとともに分かりやすい授業への改善に努めていく。
	③ 3年間を見通し、各年次に応じた計画的・自律的な学習を行い、明確な進路目標を持ち、その実現のための意欲が旺盛な生徒を育成する。	進路指導課 各年次 各学科	【成果指標】 就職や進学において、生徒の進路実現を図る。	各学年に応じて、明確に進路目標を掲げた生徒、進路実現を達成した生徒が A 100%である B 95%以上100%未満である C 90%以上95%未満である D 90%未満である			B	明確な進路目標を掲げた生徒 1年生 88% 2年生 98% 3年生 100% 全体平均95.2%	1年次生は5月の進路希望調査、2年次生は7月の進路希望調査、3年次生は9月時点での状況から明確な進路目標を掲げている生徒の百分率が左記のようになっている。全体としてはB評価であるが、年次が上がるにつれて目標が明確になっていくことは読み取れる。これから学年末に向けて、3年次生全員の進路実現を図ることを目指し、指導していく。

令和5年度 学校経営計画に対する中間評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定	集計結果	備考
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、他者への敬愛と協力を重んずる態度を育成する。	① 教職員から積極的に挨拶を行い、始業・終業時の挨拶に統一を徹底する。登校指導でも指導する。また、農業クラブによる啓発活動を実施し、朝の挨拶への意識を高める。	生徒指導課 全教職員 各年次 農業クラブ	【成果指標】 自発的に挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に挨拶ができたと答えた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	いつも挨拶をしている33.0% 少しづつ挨拶をできるようにしている37.7% 自発的に大きな声で挨拶ができたと答えた生徒の合計 70.7%	前期学校評価生徒アンケートの結果によると、いつも大きな声で挨拶をしていると答えた生徒が33.0%、少しづつ大きな声で挨拶していると答えた生徒が37.7%、挨拶はするが声はまだ小さいと答えた生徒が25.9%、ほとんど挨拶はしないと答えた生徒は3.4%となった。 昨年度C判定であったものが、3ポイントほど上昇し、B評価となった。登校時の挨拶については、コロナ禍があげ、の中で大きな声で挨拶をするよう指導しづらい面もあり、徹底できていない。挨拶しようという姿勢だけでも正しくできるように今後も指導していきたい。
	② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。また、農業クラブや公安委員会による啓発活動を実施し、無遅刻への意識を高める。	生徒指導課 全教職員 各年次 農業クラブ	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	基本的な生活習慣が身に付いたと答えた生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	しっかり身につけている 51.9% ある程度身につけている 38.3% 基本的な生活習慣が身に付いてと答えた生徒の合計 90.2%	前期学校評価生徒アンケートの結果によると、しっかり身につけていると答えた生徒が51.9%、ある程度身につけていると答えた生徒が38.3%、少しは身につけていると答えた生徒が8.0%、身につけているとは決まらずと答えた生徒が1.9%となった。 ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が身につけていると答えている。しかし、遅刻したり、服装の着こなしが良くない生徒が見受けられる。不十分な生徒がいる中で、今年度もカード制指導を継続しており、今後、指導の成果がでてくるよう期待している。
	③ 集会・HRなど様々な機会を通して、自身の「あり方・生き方」について考え、学習するとともに、いじめ等の防止に繋げるため他者への敬愛と協力を尊重する姿勢や態度を育成する。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 アンケート結果により、他者を敬愛する態度が育まれている。	どのような理由があろうとも、いじめは絶対に許されないととの質問に対して「あてはまらない」と回答した生徒の割合 A 2%未満 B 2%以上4%未満 C 4%以上6%未満 D 6%以上	C	どのような理由があっても、いじめは絶対に許されないととの質問に「あてはまらない」と答えた生徒 4.3%	5月・7月のいじめアンケート調査で、いじめは絶対に許されないととの質問で「あてはまらない」と答えた生徒が4.3%となった（1年次生2.5%、2年次生3.5%、3年次生7%）。 コロナ禍では集会等が十分開けなかった面はあるが、様々な機会や場面を通して、他者への敬愛と協力を尊重する態度を育めるよう声掛けをしていきたい。また、啓発活動として生徒会執行部と協力して放送等で生徒から生徒への呼びかける機会を増やすとともに、割合が高かった3年次生については、関係課と連携しながら改善に努めていきたい。
4 タイムマネジメントに基づき、能率的な部活動や課外活動を推進し、活力ある学校づくりに取り組む。	① ガイドライン内の活動時間であっても、講習会、講演会などを積極的に取り入れ、効率的に部活動や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A	積極的に取り組んでいる 46.3% ある程度取り組んでいる 35.8% 課外活動に積極的に取り組んでいる生徒の合計 82.1%	生徒向けアンケートの結果によると「積極的に取り組んでいる」が46.3%、「ある程度積極的に取り組んでいる」が35.8%で、あわせて82.1%となり、A判定になった。 コロナ禍も明け、各部・研究会は積極的に活動している。その結果、前年度の新人大会と比較して、6月の高校総体では好成績を残す部活動が増えた。 また、各研究会も農業クラブの大会等に向けて努力を続けている。北信越ブロック大会では、プロジェクト発表会において1つのチームが最優秀賞を獲得し、意見発表会では2人が最優秀賞に輝くなど全国大会でも入賞が期待できる。
	② 農業クラブ活動の内容を充実し、生徒の参加を通じて、その意義を理解させ、生徒の農業及び関連分野に対する関心及び学習意欲を高める。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	【満足度指標】 農業クラブ活動への参加を通じて専門分野への学習意欲が高まった生徒が増加している。	農業クラブ活動への参加を通じて専門分野に対する学習意欲が高まった生徒の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	大いに高まった 31.5% ある程度高まった 36.4% 農業や専門分野に対する学習意欲が高まった生徒の合計 67.9%	生徒向けアンケートの結果によると「おおいに高まった」が31.5%、「ある程度高まった」が36.4%で、あわせて67.9%となり、B判定になった。昨年度のC判定から向上した。 高等学校学習指導要領（農業科）に学校農業クラブ活動が指導項目として位置付けられており、学校農業クラブ活動は農業科全体で実施していくものである。農業クラブの係としては今後も学校農業クラブ活動を支援し、広報・周知に努めながら、農業科の教員だけでなく全教職員が一丸となって学校全体で盛り上がり上げていくよう努めていきたい。
	③ 統一的な取り組みや学校独自の多忙化改善を進めることで、時間外勤務時間の削減に取り組む。また次年度の効果的な取り組みのためにデータの分析・調査を進める。	全教職員	【成果指標】 働き方改革の意味合いを、職員が共有化し多忙化改善に向けた取り組みにより時間外勤務時間が減少する。	超過勤務ガイドライン上限45時間を下回る職員の割合が A 75%以上 B 60%以上75%未満 C 50%以上60%未満 D 50%未満	B	超過勤務ガイドライン上限である45時間を下回る職員の割合 60.9%	4月から8月までの5か月を集計したところ、45時間を下回った職員は、のべ137名（60.9%）であった。一方、過労死ラインの目安となる80時間を超えた職員が29名（12.9%）、そのうち100時間を超えた者が10名（4.4%）いた。 昨年度よりも長時間勤務をしている者が減少したものの長時間労働は国が掲げる働き方改革の中でも重要な課題のひとつであり、本人や家族のためにもメリハリのある効率的な業務改革を勧め、今後は少しでも超過勤務の軽減に努めていきたい。